

校地、校舎等の施設設備
及び学生の教育研究環境

校地、校舎等の施設設備及び学生の教育研究環境

1-1 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備の適切な整備と有効活用

教育研究活動に必要な施設設備は、大学設置基準及び本学の教育目的に沿って、整備しており、教育課程及び教育計画の教授に必要な施設設備を充足し、有効活用している。

(1) 校地・校舎の整備

校地の面積は表-1に示すとおり。大学設置基準第37条の基準（収容定員学生一人当たりの校地面積：10㎡）を満たしている。

校舎の面積は表-2に示すとおり。大学設置基準第37条の2の基準（経済学部収容定数801人以上の場合の面積）を満たしている。

表-1 校地の面積（収容定員6,400人）

	学生一人当たりの校地面積	校地面積
基準	10.00 ㎡/人	64,000 ㎡
本学	12.41 ㎡/人	79,396 ㎡

表-2 校舎の面積（収容定員6,400人）

	校舎面積
基準	23,466 ㎡
本学	38,956 ㎡

(2) 校舎施設

校舎は、9の講義棟から成り、各学科の授業教場を配置している。

教場は、講義室54室、演習室29室、実習室6、情報処理実習室5を整備し、座学講義、語学実習、卒業研究等に利用している。

(3) 図書館・情報センター

① 図書館の施設

福岡キャンパス図書館は、2階に事務室及び情報端末室、3階に書庫を整備している。また、3キャンパスとも閲覧室は、国立情報科学研究所が示す大学図書館の用途別スペース配分にもとづき利用状況を勘案すると満足できるスペースを有している。特に、新図書館ができてからは、利用者へのサービス向上に伴って利用者も大幅に増えている。

② 図書・学術資料等の整備

図書・学術資料等の整備は、学生及び教職員に対する学習、教育・研究活動の支援を目的とし、授業で得た知識の更なる向上及び新たな知識探究の支援を狙いとして行っている。資料収集にあたっては、本学の専門分野（経済学、経営学、商学、経営法学）に関するものが大半を占める。

近年は、3キャンパスともにアジアやヨーロッパ各国からの留学生が増え、そのニーズも多種多様になっていることから、留学生のリクエストにもできるだけ応えるように努めるほか、資料・情報の収集・提供にあたっては、「多言語・多分野」をテーマとして掲げ、特に雑誌とデータベースは継続的に増量している。平成24年5月1日現在の図書等の所蔵数は、3キャンパス合わせて133,659冊である。

③ 図書館の活用

- ・図書館の利用については、4月にガイダンスを行い、図書システムを説明し、学生が図書館資料を有効に活用できるよう、支障のないようにしている。また、学生の自習室としての役割もあり、夜間はアルバイトの配置によって、利用できるように配慮している。

- ・図書館の閲覧室は夜20時まで使用でき、スペース的にも十分な広さを有している。

- ・図書館に設置しているパソコンにより、学生はユーザーIDとパスワードによって単位の取得状況や履修に関する情報及び就職情報なども閲覧できるようにしている。

④ 東京渋谷キャンパス・神戸三宮キャンパスの図書

東京渋谷キャンパス・神戸三宮キャンパスのいずれも、運営のシステムは福岡キャンパスと同じである。東京渋谷キャンパスは20,544冊の図書、神戸三宮キャンパス14,553冊を整備しており、今後も蔵書を増やして行く。

(4) 運動場及び体育館等

大学が管理している体育施設は、サッカー・ラグビー場とテニスコートがある。

また、神戸三宮キャンパスは、都築学園の運動場及び体育館を共同利用している。

さらに、東京渋谷キャンパスは日本薬科大学（都築学園設置校）の運動場及び体育館を共同利用している。

また、太宰府地区には都築学園設置校用の硬式野球場があり、共同利用している。

さらには、リンデンホールスクール中高学部の体育館及び総合グラウンドがあり、共同使用できる環境にある。

(5) マルチメディアセンター・情報リテラシー教室

マルチメディアセンターにパソコン45台設置し、本学の情報処理教育及びインターネット接続環境を含む情報処理システムを管理・運用・整備している。学生は、常時利用できる環境にある。

また、情報リテラシー教室にはパソコン100台設置し、情報処理教育に供している。

更にマルチメディアセンターには、インターネットを含むネットワーク上で利用されるサーバーを配置し運用している。

また、各事務室・研究室・卒業研究室には、学内LANが整備され、教職員一人ひとりがネット

ワークで結ばれ、情報入手・交換が可能である。

(6) AV (Audio Visual) 設備

AV設備の設置教室は表-1に示すとおり。

	福岡キャンパス	東京渋谷キャンパス	神戸三宮キャンパス
プロジェクター	15	8	2
インターネット	15	2	4
移動用プロジェクター	3	4	2

(7) クラブハウス

学生用クラブハウスは、A、B、Cの3棟を設けており、全クラブの部室及び経友会本部等に配分している。各部室等の管理は、クラブハウス管理規則に則り学生課の統制の下、各クラブ等が担当している。

1-2 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等の適切な維持、運営

教育研究活動に必要な施設設備は、各担当部署において適切に管理し、常に使用可能な状態に維持している。

(1) 校舎・施設設備

校舎施設については、築後年数を経た施設もあるが、全般的には支障を生じていない。要修理箇所については、年度計画あるいは必要の都度、補修を行っている。

(2) 附属図書館

3キャンパスとも図書館の管理・運営に関しては、「都築育英学園 図書館管理運用規程」、「日本経済大学 図書館利用規程」に基づき、図書委員会と連携を図りつつ支障ないように管理運営している。

(3) 運動場、体育館等

運動場、体育館等については、整備・改修が行われる等、維持・管理は適切に行っている。神戸三宮キャンパスは、都築学園の運動場及び体育館を共同利用して活動している。東京渋谷キャンパスは日本薬科大学（都築学園設置校）の運動場及び体育館を共同利用して活動している。

(4) **マルチメディアセンター・情報リテラシー教室**

情報センターの施設設備等は適切に維持、運営している。

(5) **情報サービス施設**

学内パソコンの更新、保守、点検等は計画的に実施している。

(6) **クラブハウス**

クラブハウスの維持・管理は、日頃、学生課が主に点検等を実施し、不具合事項等の早期発見と迅速な是正に努め、良好な状態で運営している。

1-3 教育環境の将来計画

教育環境の整備は、カリキュラムの見直し等、今後の大学改革計画に沿って計画的に整備していく。

(1) **施設・設備**

補修等の必要が生じた施設・設備については、計画的に補修を行っているが、今後とも検討し継続的に行っていく。

(2) **教育研究機器の導入・更新への取り組み**

学内統一的な計画性を持って、年度業務実施計画の方針、実施項目等、予算委員会で詳細にわたって検討し、その実現性に取り組んで行く。

(3) **附属図書館**

利用者のニーズを重視した情報・資料のさらなる充実のために、引き続き利用者の希望に沿った図書・資料の整備に努める。

(4) **情報関連設備**

情報関連設備は、技術革新のスピードが速いために整備が遅れがちである。しかしセキュリティ上の観点からも必要な更新は欠かせない為、コンピュータ関連設備を中心として、今後も適切なタイミングで環境整備を実施していく。

2-1 施設設備の安全性（耐震性、バリアフリー等）の確保

教育研究施設及び事務室等の全施設の安全に関する必要な規定を制定するとともに、各棟・室の防火及び施設管理者（責任者）を指定し、日常の安全管理に万全を期している。経年変化による設備等の安全確保は、日常の点検等の調査で確認し、補修・修繕及び予算等の処置を実施している。

(1) 規則の整備及び点検の励行

① 安全管理規程の制定

大学の施設設備の安全確保は、社会的責務と考え、学園の安全規程に基づき、大学の規程、要領、計画等を定め、行動の基準とし対処している。

② 点検・調査の励行

安全関連規程等に準拠して、消防設備自主点検を年1回実施している。クラブハウス点検、台風・豪雨後の被害状況等調査、あるいは日常点検において、施設全般に亘って調査を実施し、安全性の確認に努めている。不具合事項について早期に是正すべきものは、速やかに処置している。また、予算を要するものについては、次年度の整備計画に反映させるようにしている。

(2) 継続的な補修・改修

築後年数を経た建物を中心に整備計画に基づき雨漏れ防止（屋根の葺き替え、屋上ゴムマット設置、外壁塗装）、グラウンド補修等を実施し、安全確保・環境改善に努めている。耐震性については、昭和56年6月改正の「新耐震基準」施行以前に建築された建物もあり、過去の地震頻発度数、震度データを収集し検討している。

(3) 管理者及び責任者の明示

事務室、研究室は、火気取締責任者を指定して、責任者名を入りに掲示し、日常の火気を中心に安全管理を実施している。

講義室等については、各課で日常点検、安全管理を実施している。

(4) バリアフリー（Barrier Free）

東京渋谷・神戸三宮両キャンパスは、全部の建物にエレベーターが完備し、トイレもバリアフリー化しており障害者をいつでも受け入れられる状況にある。

福岡キャンパスも、図書館棟はエレベーターが完備し、トイレもバリアフリー化している。物理的なバリアフリーについて、小段差の個所は「すりつけ板」を設置する等、処置している。

2-2 教育研究目的を達成するための、アメニティに配慮した教育研究環境の整備、有効活用

教育研究環境の快適化は、特に学生の学習及び有意義で楽しく活動できる場として、支援すべき重要事項の一つと認識しており、有効に活用できるように改善整備を行っている。

平成21年度後期からキャンパス内の禁煙化を進め、平成22年4月1日から教職員・学生ともに全面禁煙としている。

(1) 空調設備

講義室等全てに、空調設備機器（エアコン）を設置している。

(2) 学生食堂

福岡キャンパスに学生食堂は1箇所である。十分な室内スペースと食事メニューを提供している。尚、東京渋谷キャンパス、神戸三宮キャンパスには学生食堂は設置していない（学生ラウンジは設置）。

(3) 学生寮

福岡キャンパスには、大学に隣接しているオックスフォードハウス寮、大学から5キロ圏にケンブリッジハウス寮があり、十分な部屋数と食堂、大浴場（露天風呂）、ランドリー、売店、各部屋冷暖房、クラブハウスを備えた快適な環境を提供している。

(4) 学生サービス、清掃等

- ① 掲示板は大学全体用と各学科用を設置し、大学・学生間の伝達手段としている。
- ② 文房具の売店、自動販売機を設置し学生の便宜を図っている。
- ③ 日々の校内清掃は清掃係員が行っており、教室の黒板の清掃、実験室のゴミ排出等常に清潔を確保している。

2-3 施設設備の将来計画

(1) 施設設備の安全性の確保

安全管理体制および施設設備の安全性について、指揮命令系統、規則等の共有化については、毎年度、冊子等を配布する。

(2) 施設設備の点検

施設設備は、年1回程度の定期点検とともに、定期あるいは計画的な施策を今後も講じて行く。

(3) バリアフリー

安全なキャンパス生活のために、全職員の巡回等によって整備個所を特定し改善に努めて行く。

また、身体に障害のある受験希望者には、事前相談に応じ、入学を予定する場合は教育環境改善委員会、代議員会等で審議し、身体の状態に適するバリアフリー化に取り組む。